No. 126 (1998.12)

静岡大学附属図書館報　図書館通信

●児童書に学ぶ …… 1
●一月9000円の快適食生活 …… 3
●落合恵子・伊藤悟著『自分らしく生きる』を読んで …… 4
●学生からのエッセイ …… 5
●著作権講習会報告 …… 7
●図書館から …… 8

児童書に学ぶ

戸田三津夫（工学部・物質工学科）
mtoda@mat.eng.shizuoka.ac.jp

まず自己紹介から．私の出身地は四国の松山，1959 年生まれです．所属は工学部で，浜松は 4 年目になります．今回は自然（生物）の本を何冊か紹介することにします．私の専門は有機化学ですがきわめて雑多な人間ですので，これらの本は分野を問わずきっと多くの人に楽しんで頂けることと思います．

まず大好きな生物写真家，今森光彦氏の写真集から三冊．滋賀県在住の彼は主に昆虫の写真を撮っています．『昆虫記』[1]は児童書ですがひとつひとつの昆虫について多くの場面を写真に撮りその生態をつぶさに見せています．『スカラベ』[2]は古代エジプト文明とも関わりの深いスカラベに的を絞った力作．『里山物語』[3]は今森氏の自宅付近の里山を丹念に撮った最高傑作です．『美顔礼讃』[4]は内山りゅう氏の，両生類と爬虫類の顔をアップで撮ったちょっと変わった写真集．『ギョギョ図鑑』[5]は朝日新聞日曜版に同名で連載されていたものをまとめた魚類図鑑．白黒のイラストに独特の味があります．次の『川のフィールドスケッチ図鑑・魚』[6]も児童書です．図鑑と観察ノートの二部構成になっており，川や魚の生態などを学び，自分で観察記録ができるような仕掛けになっています．カラーではありませんが，ムギツクの託卵行動にも触れられていてとても子供向けとは思えない内容です．『川底の石のひみつ』[7]は川の石から川の生態に迫ろうという本．これも児童書です．子供というものは丸い石が大好きですからおもしろいアプローチです．『黒いトノサマバッタ（私の昆虫記１）』[8]はトノサマバッタに関するこれも児童書．トノサマバッタの群生相と孤独相について詳しく書かれていてバッタ釣りにも触れられています．『どんぐりノート』[9]はどんぐりのことがなんでもわかる児童書．種類から生態，遊び方，食べ方なんでも．『巨大生物図鑑』[10]は人間を基尺に，巨大生物を，TRex からシロナガスクジラに至るまで統一した縮尺で示した異色の図鑑．ステラカイギュウやアルケロンなども出てきます．『アイスマン　5000 年前からきた男』[11]は，

獅子座流星群にも負けない今世紀のトピック，石器時代の人間が遺物とともに氷河から発見されたという一大事件に関するこれも児童書.この事件はいろいろな学術雑誌，SCIAs[12]，National Geographic[13]，などでも取り上げられたので皆さんご存知でしょう．

児童書を多く取り上げましたがこれは単に私が児童書が好きだからではありません．内容から言えば，最近の児童書はとにかく侮れないのです．第一線の専門家やマニアが本気で書いています．日本にも昔から子供向けの図鑑などがあり，それらは私の子供時代の愛読書でした．しかし，少し前までは国内のものは総じて海外ものに企画，演出などの面で大きく遅れをとっていた感がありました．とにかく，海外の良質のものには，うまく見せる工夫，トピックの選択に妥協がありませんでした．この点には我々も大いに学ぶべきものがあります．一方，児童書に良書が多いことから出版界の事情も見えてきます．最近，新刊がすぐに絶版になる，地方では本が手にはいらないなどの困ったことが起きていますが，児童書には比較的良い環境が整っているのです．すなわち，内容の良い物が選ばれる，商品寿命も長い，学校や幼稚園，図書館といった固定購買力もあるといったようなことです．本も本屋も，読者が育てるものだということを児童書があらためて教えてくれているのではないでしょうか．皆さん，良書を見つけて，買って，読みましょう！

最後に National Geographic[13]の最近の動向について.とにかく有名な雑誌ですが，最近過去 109 年間の CD-ROM 化（英語）がついになされました．1888 年から 1996 年までのすべての記事，写真が掲載されて 149.95 US $です[14]．1997 年アップデート版[15]も出ています．これからは毎年順次一年分ずつ追加発行されるでしょう．この CD-ROM は，大学の図書館にぜひ配架されるべきコンテンツです．早速，静岡と浜松に 1 セットずつご購入ください．担当の方，よろしくお願いします．

リスト：

[1]昆虫記：今森光彦，福音館書店，1988 年，2880 円，4-8340-0810-X.

[2]スカラベ：今森光彦，平凡社，1991 年，3850 円，4-582-52928-3.

[3]里山物語：今森光彦，新潮社，1995 年，6800 円，4-10-408501-4.

[4]美顔礼讃：内山りゅう，平凡社，1997 年，2100 円，4-582-52948-8.

[5]ギョギョ図鑑：鷲尾圭司，朝日新聞社，1993 年，1700 円，4-02-256643-4.

[6]川のフィールドスケッチ図鑑・魚：山海堂，1998 年，1400 円，4-381-01152-X.

[7]川底の石のひみつ（旺文社ジュニア・ノンフィクション）：稗田一俊著，旺文社 1997 年，1238 円，4-01-069542-0.

[8]黒いトノサマバッタ（私の昆虫記 1）：矢島稔著，偕成社，1998 年，1600 円，4-03-617110-0.

[9]どんぐりノート：いわさゆうこ，大滝玲子著，文化出版局，1995 年，1300 円，4-579-40356-8.

[10]巨大生物図鑑：David Peters 著，小畠郁生監修，偕成社，1987 年，3800 円，4-03-732030-4.

[11]アイスマン　5000 年前からきた男：David Getz 著，赤澤威訳，金の星社，1997 年 1200 円，4-323-06071-8.

[12]SCIAs：朝日新聞社.

[13]National Geographic：National Geographic Society,（since 1888）Washington, D. C.

[14]The Complete National Geographic（31 CD-ROMs）.

[15]The Complete National Geographic:1997 Update（CD-ROM）.

National Geographic Home Page：http://www.nationalgeographic.com/

＊[1]～[11] 購入予定

＊ SCIAs と National Geographic は本館雑誌コーナーにあります（CD-ROM 版については未定）

『一月９０００円の快適食生活』

村越真（教育学部・心理）

一月の食費が９０００円？一度でも自炊をしたことがある人なら、これがどんなに困難なことか容易に想像できるだろう。私自身、貧乏な大学院生時代、食費を切り詰めようとせっせと自炊をしていた。朝食を食べながらランチのサンドイッチを作る。夜ももちろん自炊だ。炒めものやシチューを作る。当時も現役の競技者だったから、栄養のバランスにも注意する。当然野菜やタンパク質も欠かせない。だいたい一人くらしの自炊というのは、よほど計画的にやらない限り、外食のほうが安くつくくらいのものである。肉なんかも一パックを今日のシチューと、明日の焼き肉に利用して・・・、とみみっちく使っても、月２万円に抑えるのもままならなかった。

先日体育の授業で、学生がどんなものを食べているかを調べた。下宿生の多くは、貧弱な食生活だった。朝食を取らない学生も多いし、栄養面では野菜や果実に乏しく、間食が多いなどの特徴があった。自炊の面倒臭さやコンビニやファストフードで簡単においしいものが手に入ってしまうことも、食生活を貧弱にしている大きな原因かもしれない。

そんな食生活をなんとかしたいと考えている人にぜひ勧めたいのが、この本である。著者である魚柄仁之介氏の一月の食費は、９０００円どころか近年の平均は正確には７４５０円だという。栄養のバランスをちゃんと考え、うまい料理しか認めない。しかも３食自炊して、一日平均の調理時間はたったの６５分である。これなら忙しいあなたにもなんとかなりそうだ。いったい、どうやったらそんな食生活ができるのだろうか？

たとえば、大根のへたである。切り残ったへたを小皿にとり、水をはっておくと、青々した葉っぱがのびる。その葉っぱを収穫して食べちゃう。煮物のためにむいたごぼうの皮は細く刻んで油でいためて、きんぴらごぼうにしてしまう。しかも皮のほうが風味がいいときている。また、りんごの皮は乾燥させて紅茶に入れると、フレーバーティー顔負けの風味豊かなアップルティーができあがる。この本の一章「安い！が基本」には、そんな材料費０円の料理が１３もならんでいる。

第二章「時間は短く」では、手間を省く工夫を挙げている。炊飯釜の中に水をたっぷりいれた湯飲みに少量の米を入れて、ご飯とお粥を一緒に作ってしまう、夕食の野菜を朝食の味噌汁を作るときに一緒に煮てしまう、丸底の片手鍋でボールも代用してしまう。さらに第四章「楽膳にルールはない」では、ホットプレートにハンディタイプのガスバーナで上からあぶってピザを焼くとか、ナスでサンドイッチペーストを作る、など奇想天外な料理のアイデアが披露される。日ごろ、オリエンテーリングの練習の工夫と少ないエネルギーで最高のパフォーマンスを挙げることには人にひけをとらないと自負する私だが、ここまで徹底した手抜きと合理性、そして緻密な段取りと大胆な実践には、ガツンといっぱつやられた気分だった。

魚柄氏が食生活を通して主張する合理性は、生活のあらゆる側面に活用可能である。忙しい忙しいといいながら、工夫も知恵もなく余計な仕事を抱えこんでいないだろうか。本当に自分が手に入れたいものではなくて、プロセスや見た目に妙にこだわっていないだろうか。大は国家から小は家庭生活に至るまで、世の中そんなことが多すぎる。この本に触発されて、私は料理ではなくて、自分とチームのトレーニングの更なる工夫と合理化に取り組もうと思ったくらいである。だいたい、どんなことにしろ、自分で工夫した作業というのは、やる気になるものである。

勉強に打ち込むにしろ、アルバイトに精を出すにしろ、部活に入れ込むにしろ、基本は健康である。そのためにも、食生活の充実は欠かせない。安くて、うまくて、早くて、しかも栄養満点。そんな食生活のために、ぜひ一読を勧めたい本である。

＊『ひと月 9000 円の快適食生活』魚柄仁之助著 飛鳥新社 1997 年　（購入予定）

『自分らしく生きる 同性愛とフェミニズム』を読んで

熊谷滋子（人文学部・比較言語文化）

今年の夏、ある集まりで気づかされたことがあった。そのザックバランな雰囲気の会合で、女性がタバコをすっていることに違和感を覚えたのだ。いかに素敵な意見を述べていても、タバコをすっているということで、マイナスイメージを持ってしまっていた。これが、男性だったら、その人の意見に注目し、タバコのことで、あれこれ惑わされることはなかっただろう。

このイメージは、物心づいてから現在まで絶えず流されてきた情報や社会環境によって私の心にしっかり根付いてしまったものだ。例えば、日本のタバコの広告には、タバコをすっている女性（日本人）は登場してこなかった。ドラマでタバコをすう女性は、キャリアウーマンタイプで、仕事をバリバリこなすが、時に剣があり、自分勝手なところがある。私のまわりにいた女性でタバコをすう人は、少なく、いたとしても、隠れてすっていたりして、タバコをすう時は、非常にまわりに気を使っていた。

女性がタバコをすう光景に対するイメージは、まさにこれらの情報が組み合わさって、ある一定のイメージに作り上げられ、私の心に内面化され、維持されてきたのだった。タバコをすう女性が増えてきた現在でも、一度作り上げられてしまうと、再生産されているイメージから抜け出すことは難しい。このイメージは、しかも、「世間の常識」としても、様々に正当化されていくのだから空恐ろしい。そのうえで、そのことで、互いに縛り合ってしまっているのだ。（タバコ自体は健康上問題があるが、とりわけ女性だけにあてはまるとは言いがたく、出産という母体保護の観点からだけでも、不十分である。）

このような「作り上げられた」イメージ、パターンになれ親しんでしまっていることは、何もタバコだけに限らない。あらゆる社会関係にあてはまる。（酒を飲む女性のイメージは？）

この本は、そのような作られた、特に権力を持つ側からの「世間の常識」に対して、異議申し立てをしている。フェミニストである落合恵子さんと、同じく作家でもあり、同性愛者である伊藤悟さんが、対談を通して、分かりやすく、現代社会の矛盾（ここでは、特に「異性愛強制社会」と呼んでいるもの）を解きほぐしている。「自分らしく生きる」という、あまりにもまともなタイトル。特に、「世間の常識」からはずされ、周辺に追いやられた少数者が、いかにして「自分らしさ」を生きていけるのか、それぞれの立場から語り合っている。

落合恵子さんは、言葉についてもふれている。「わたしたちが、ふだんなにげなく使っているおおかたの言葉、そして、その言葉が想起させるおおかたのイメージは、支配、管理する側にとって都合のいい視点から作られ、流布され、さらに再生産、再助長されてきたものがほとんどであるのですから。それらの言葉を使うことは、無意識のうちに差別や偏見の力学にくみすることでもあるのですから。」

言葉は、生まれてからずっとなれしたしんできた、空気のような存在（空気なしには生きていけないと同様に、言葉なしには、一日たりとも生きていけない）なので、なかなかきちんとその存在を受けとめて、考えてみることをしないし、しにくい。内面化されていて、あたかも皮膚の内側にまで浸透してしまっているようなものである。言葉を批判的に、冷静に見つめようとするなら、やはり、皮膚を剥がしていくような、きつい作業となるだろう。しかし、その作業をしていかないと、本当に「自分らしさ」を見つけられないし、「自分らしさ」を生きてゆくこともできない。

世間でいう、「男らしく」、「女らしく」、「学生らしく」、「教師らしく」、生きることの方が、楽な場合があり、この誘惑に負けてしまう時がある。しかし、その時の後味はよくないことが多い。自己嫌悪に陥る。自分で自分の首をしめ、また、それが相手の首をもしめてしまうことが、この「らしさ」の正体だ。とくに、自分自身の力がな

かったり、自信のない場合には、この作られた「らしさ」の誘惑に従ってしまい、本当の自分を押し殺してしまうことが多い。

この本の裏表紙に２人が対談している写真がある。そこには、落合恵子さんが、タバコをすっていたことがわかる証拠がある。ドキッ。現実をヨーク見てみると、どこにでも、作り上げられたイメージに挑戦してくる材料がころがっていることに、改めて気づかされた。

＊『自分らしく生きる　：同性愛とフェミニズム』落合恵子，伊藤悟著
（かもがわブックレット；１１６）かもがわ出版　1998 年　（購入予定）

●◌●◌●◌● 図書館アルバイトの学生より ●◌●◌●◌●

「図書館にて」

窪田正義（理工学研究科・機械工学専攻　１年）

今年から、図書館にバイトとして勤務させていただいているのだが、これがなかなか勉強になることが多い。最初のうちは、本当に本の貸出手続き返却手続きしか出来なかったのだが、コピー機の用紙の保管場所を始め、だんだんと多くの事が分かってきた。そのため、いろいろな状況に対処できるようになったと自負している。本を棚に返却していると、系統別におおよその本の場所が分かるようになり、利用するときも非常に早く探せるようになった。また、新たな本に巡り会える貴重な時間にもなっている。「おおっ、こんな本が！」などという出会いもたまにある。まあ、そのまま読み始めてしまうこともあるという困った人間なのだが。

困ったといえばこんな事があった。ある日、返却手続きをしていると、登録番号のない本があった。不審に思い色々な所を見てみると…“浜松市立図書館”と。…本は、借りた所に返却しましょう。また、「これ返さないと」って、自分の本まで返却して帰ってしまう困った人もいた。

ここで同じく今年から入った BDS(Book Detection System)君を紹介しよう。

図書館の入り口に配置された、本の持ち出しチェック用の機械なのでご存知の方も多いと思う。こいつのおかげで図書館内にかばんを持ち込むことが出来るようになり、非常に便利になったのだ。彼は、働き者で、開館から閉館まで始終本の持ち出しをチェックしている。ただ、それを認めてもらいたいらしく、本以外のものにも反応したりする。挙げ句の果てに、素早く通り抜けようとすると、“らんぼうにあつかうな”とばかりにビビーっと鳴る、ということもしばしばある。だから図書館から出るときは“ご苦労様”と思いつつ、やさしく取り扱ってやってほしい。そうすれば、彼も迷惑な行動を控えてくれるに違いない（と信じている）。

このように、頼りないバイトではありますが、出来うる限りサービスしていきたいと思いますのでこれからも宜しくお願いします。

「未知との遭遇」

相澤貴宏（教育学部・総合教育課程 2年）

以前、哲学の授業で授業一回につき本一冊の目次を書き写すという課題を出されたことがある。知らない言葉が多く、それらを書き写すのは結構辛かったのを覚えています。

考えてみると、世の中には知らない言葉が飛び交っています。テレビで「インドメダシンが効く」と言っていても、それがどこから来たのか、何なのか、さっぱり分かりません。それでも、案外いい加減なもので「効きそう。」と思ってしまうんですけど・・・・・・。これをつきとめてみようと思う人も、そうでない人も居るのでしょうね。

話が変わりますが、自分で家庭教師をしてみると、子供が先の単元に進むのに、ひどく拒否反応を示すのに驚かされます。しみじみ、知らない事に着手するのは面倒で、自分の無知を目のあたりにするのも不快で辛いことだと考えさせられます。自分の領域外のものに対する恐れかもしれません。けれど、世の中にはそういった自分に対しての試練を克服して自らの夢を全うして邁進している人もたくさん居ます。己々が出来ることやチャンスは、実はそこらに転がっていて、それに気付いて掴み取れるかが重要だと思います。

本を配架していると、様々なタイトルに出会います。正に未知との遭遇です。幾度か会うと、「おう、お前かい。」という気持ちになります。（内容は未知のままですが）中には、「なぜ蝶は飛ぶのか？」とか、「ファラオの秘薬」といった妖しげなものも有ります。自分の幅を広げたい。今の自分から脱却したい。そんな方はまず、こんな妖しげなタイトル探しをお勧めします。未知の言葉も二回目に会う時は、未知の度合いも薄くなる筈です。

「くううきゅるるる～」と「プルルル…」

平岡梓（農学部・森林資源科学科 3年）

図書館のアルバイトは、とてもお腹がすく。午後の5時から9時まで重い本を抱えて本棚の間を動き回らなければならないのだから、これでお腹がすかないほうが変である。そこで問題になるのが、お腹の虫。「くぅぅきゅるるる～」とばかりに、しんと静まり返った図書館に響きわたっていくのである。それをごまかすためにスニーカーで床をこすって似たような音を作ってはみるが、これでは犯人が自分であることを自ら告白しているようなものであろう。

ところが最近、私のお腹の音よりも大きく図書館中に鳴り響くものがある。利用者の持っている携帯電話がそれである。

突然の「プルルル…」のあとにあわててカバンの中を探り、椅子をひいてひとの迷惑にならないところまで走っていく。たいてい、走っていく途中で話は終わってしまい、また自分の席に戻っていく・・・といった光景をよく目にする。何だか見てるほうとしては別に今話さなくてはならないというようには見えないのだが、実際はどうなのだろう？

せめて図書館にいる間ぐらいは、携帯電話のスイッチを切るなり、留守番電話に吹き込んでもらうようにして、ゆっくり読書を楽しんでみてはいかがだろうか。それが携帯電話を持つ人のマナーでもあると思う。

ゆっくり読書に集中してもらえれば、私のお腹の音も誰も気にしなくなるだろう。私にとっては一石二鳥のうまい話になるのだが。

図書館等職員著作権実務講習会を受けてきたんですが

運用係　　真中　進

この７月の末に図書館等職員著作権実務講習会というのを受けてまいりました。その報告を、とのお達しです。これが行った直後ならともかく、にわとり以下と自他共に認める私の頭にとっては、はるか昔の話。とった宿が上野不忍池のすぐそばてんで、講習が終わるとさあ鈴本だ、なんだこの広小路亭てのは、池のところにゃわけのわからねえ道具屋が店を出してっから、あすこも冷やかしてってみんべえと、田舎者丸出しでふらふらしてた、どうかすると、こちらの方がよっぽど記憶に残っていたりします。ま、著作権法に実演（この定義がややこしい）も保護の対象とありますので、リーディングだけではいかん、やはりフィールドだよ、などとほざいておりましたが。

ところで、普段著作権って意識したことありますか。

あちこちに表示はされているので、見たことも聞いたこともないと言う人は、まずめったにいないと思うのですが。

丸の中にｃ、または(c)のマーク。本や雑誌の奥付、裏表紙に無断転載を禁ずなどとあるのまで見てる人は少ないにしても、映画などをビデオで観れば、頭か最後に必ず、ご家庭でご覧になる以外は云々と表示されますし、マンガで鼻歌の一つも出れば、かたわらに日本音楽著作権協会許諾第何号と記されている、図書館のコピー機のところには、でかでかと----あったはずと思っていたら、ないですね----館内資料複写申込書（私費用）を見てください、下の注意書きに書いてあります、著作権法により何とかしか許されません、と。

私的利用や、既得権などで一部制限されているせいもあってか、あれはプロの間で問題になること、商売じゃないから大丈夫などという方もいますが油断大敵。カセット、ＤＡＴ、ＭＤ、コピー機にビデオ、パソコンその他複製の道具が自分の家にあるのが、当たり前と言っていい時代。ミニコミ、ミニＦＭ、草の根ＢＢＳときて、今はインターネット、メディアまでが自分のものに。

金も設備も、知識や覚悟まで一層要求されるインターネット、確かに便利ではあります。自分でホームページ立ち上げて、行ったこともない国からアクセスがあれば、なんだか偉くなったような気になれます。知人にもわけのわからないデータベース公開して、自慢たらたらというのがいますし。

いいにはいいんでしょうが、どこか片隅でやってた同人誌の交換が、公道上で、みんなが見ているなか行われるようなものですから、気が付いたらあなたも私もみんなプロ、法規制の地雷原の中で、さあ、何ができるんでしょう。

当たり前にブラウザ使ったらできるディスクキャッシュ、あれすら対象が著作物であるならその複製には違いなく、私的利用なら許されるとしても、たとえば図書館がおいてるパソコン、公共の設備で、使っているのが誰であれ、私的利用とは言えないともあります。許容範囲を超えるとなれば、プログラムの著作物として著作権法で保護されている某社のインターネットブラウザは、公共の場にあっては、その標準の機能において、たとえ意図せずとも他者の著作権を侵害するおそれがあるので、使用することまかりならん、なんて裁きが下るかもしれません。

図書館はサービスするものの大半が著作物です、世の中の進歩につれて法律も法解釈も変化していくことですし、これからもしっかり勉強してください、と講習会の趣旨はそんなところでしょうか。

アリバイ工作みたいなしめ方ですが、何も入船亭扇橋の紋三郎稲荷聴くために職場をあけてたわけではないと、こんなところで終わりとさせていただきます。

図書館の動き

◆人事異動

平成１０年１０月１日

茎田美保子　（和書係長→資料受入係長）
山本孝　（洋書係長→目録情報係長）
塚本雅美　（学術情報係長→システム管理係長）
伏見宏子　（総務係会計主任→経理部契約室調達第一係主任）
杉坂和子　（総務係庶務主任→総務係主任）
中村茂　（管理運用係管理運用主任→理学部総務係主任）
戸塚章　（庶務部企画室管理係管理主任→管理運用係主任　浜松分館勤務）
鈴木健太　（情報学部会計係→総務係）
村上真佐子　（和書係→資料受入係）
石田朋子　（和書係→資料受入係）
溜渕文子　（洋書係→目録情報係）
小濱進　（洋書係→目録情報係）
小林由佳里　（洋書係→目録情報係）
近藤久直　（学術情報係→システム管理係）
山川玲子　（学術情報係→システム管理係）
佐藤和慧　（参考調査係→管理運用係　浜松分館勤務）

＜新規採用＞

林三千代　（参考調査係）

◆平成１０年度静岡県図書館大会

（平成１０年１１月２日（月）
於：ホテルセンチュリー静岡）

「暮らしの中に図書館を」を総合テーマに、県内の図書館関係者ら約８５０人が参加。「図書館のおいしい食べ方」と題したパネル討論では高度情報化や、生涯学習における地域との関わりについてなど、今後の図書館のあり方について、活発な討論が行われた。また、図書館功労者及び永年勤続者の表彰式が行われ、本学から山本目録情報係長、塚本システム管理係長が表彰された。

お知らせ

冬季休業中（12月21日から1月10日まで）、休館日、閉館時刻は以下のとおりです。
＊分館は9:00～17:00となります。

12月21日（月）	8:30～17:00	1月 1日（金）	休館
22日（火）	8:30～17:00	2日（土）	休館
23日（水）	休館	3日（日）	休館
24日（木）	8:30～17:00	4日（月）	休館
25日（金）	休館	5日（火）	9:00～17:00
26日（土）	休館	6日（水）	9:00～17:00
27日（日）	休館	7日（木）	9:00～17:00
28日（月）	休館	8日（金）	9:00～17:00
29日（火）	休館	9日（土）	休館
30日（水）	休館	10日（日）	休館
31日（木）	休館	＊1月11日以降は平常どおり	

貸出図書の返却期限日の変更

●本館：11月30日から12月24日迄に貸出した図書の返却期限日は、1月18日（月）
●分館：12月14日から12月24日迄に貸出した図書の返却期限日は、1月12日（火）

静岡大学図書館報「図書館通信」　１２６号　（１９９８年１２月１０日発行）
発行所　静岡大学附属図書館　〒422-8529　静岡市大谷８３６　Tel.054-238-4479　Fax.054-238-5408